

2021年度 けやき倶楽部 第3回講演会 報告

2022年2月23日

演 題 : 中国近世の家族 — 血縁ネットワークの比較社会史 —
講 師 : 山田 賢(まさる)先生 (千葉大学教授、けやき倶楽部前顧問)
日 時 : 2022年2月8日(火) 13:00 ~ 14:30
場 所 : 山田先生の執務室と会員自宅 (Zoomを使用したオンライン)
参加者 : 57名

< 講演要旨 >

一昨年講演した「秘密結社」とは擬制的な大家族であった。次に考察すべきは、「秘密結社」の「影」に対する「光」、すなわち中国近世における正統なる「家族関係」そのものである。16世紀以降の近世中国においては、数百人から数千人に及ぶ巨大な大家族が地域社会に君臨することは珍しくなかった。

そしてこのような事態は日本の近世 — 江戸時代の地域社会 — とあまりにも異なる。

中国近世の「家」(チア)は、どのような原理のもとに成立していたものであり、それは日本近世に形成された「家」(いえ)とどのように異なっていたのかを探ってみる。

< 講演資料 >

- ・「血縁」の考え方
- ・「宗祠」「族譜」
- ・「姓」とは何か
- ・「家」とは何か
- ・中国と日本の家産相続
- ・「家」の東アジア比較史
- ・近世東アジアの「相続」
- ・「養子」
- ・東アジアにおける人口増加の傾向と「分岐」

< まとめ >

17世紀以降中国では、人口増加が続き人が移動して開発が進んだ。相続についても**男子均分相続**が継続した。(**タンポポ型** : どこかで誰かが成功すればいい。) チャンスとリスクをもち膨張し続ける社会。

日本は国土が狭いこともあり開発が停滞し、定住が基本となる。相続は**長子単独相続**を維持した。次男三男は婿養子に入る場合もあり。(**球根型** : 1ヶ所で生命を代々維持する。) 「経営体」の確実な継承が大切で、安定した社会を目指した。

現代に入っても中国人は、同じ姓ならば先祖は同じという感覚で「一族・家」意識を持ち経済活動を共にすることがある。それは国内に留まらず世界中に広がっている。

< 質疑応答 > 5名 (25分間)

中国人の土地に対する執着度、均分相続、華僑のこと、国境感覚、一族のネットワーク作りなどについて質問があり、山田先生に解説いただいた。

< 講演の様子 >

Zoom 画面から



< その他 >

- ・ 当初、会場とオンラインのハイブリッド形式で設営する予定だったが、コロナ感染が増大したためオンラインのみの開催に変更した。会場希望者2名は不参加となった。
- ・ 講演後の録画公開聴講者は24名（新規聴講19名、再聴講5名）であった。

文責：企画チーム 笹畑
以上